

2026 年度定時総会

2026 年 5 月 15 日(金)

富山国際会議場
メインホール

一般社団法人軽金属学会

一般社団法人軽金属学会 2026年度定時総会議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 議事録署名人の確認
4. 議事
 - 第1号議案(報告事項)
2025年度事業報告に関する件 1
 - 第2号議案(審議事項)
2025年度決算報告に関する件 19
 - 第3号議案(報告事項)
2026年度事業計画に関する件 53
 - 第4号議案(報告事項)
2026年度収支予算に関する件 61
 - 第5号議案(審議事項)
名誉会員推薦に関する件 85
5. 閉会

【第1号議案】(報告事項)

2025年度(令和7年度)事業報告に関する件 (2025年4月1日から2026年3月31日まで)

I. 事業の状況

2025年度は、新体制となり、各常設委員会の活動を活性化するため、委員長、副委員長、担当理事を各1名の構成で推進した。本部、支部の多くの活動はここ数年で確立された対面・Web併用したハイブリッドで開催されている。一方で、講演大会は、春期大会を完全対面での開催を復活した。一方、シンポジウムや軽金属セミナーについてはアンケートの結果を参考に、ハイブリッド式にて開催し、会員満足度を考慮した活動を推進した。5月の第148回春期大会(北九州国際会議場)は完全対面、11月の第149回秋期大会(横浜国立大学)もハイブリッド式で開催した。ハイブリッド式は本部設備を利用し、技術的にも大きな問題なく開催が可能となった。ポスターセッションは、第144回大会から始めたポスター発表番号の奇数・偶数に分割した2部構成による開催が定着し、また、ポスター審査および表彰についても新たな技術を活用し効率化を図った。懇親会も対面開催し、多くの学生会員を含めた参加があり研究交流や意見交換が行われ、子ども同伴による懇親会参加は定着するようになり、世代を超えた開催となった。

総合計画委員会は、「財政健全化」「生産技術関連」「若手研究者」への対応を中心とした、将来の学会に向けた取り組みを議論し、会員満足度を考慮した事業活動のあるべき姿を見据えるとともに、財政の見える化のため家計簿を作成し、事業の取捨選択による効率化をはかり、各常設委員会の活動の健全化を進めた。

企画では、生産技術関連を考慮したテーマ「アルミニウム製品の材料設計、製造プロセスへの機械学習の活用」と題しシンポジウムを開催した。また、軽金属基礎技術講座、軽金属セミナーを継続開催し、これらは、会員から高い評価を得られた。

研究事業では、17テーマの研究部会(内、生産技術関連7テーマ)と1テーマの先行研究部会で研究活動を推進した。当年度で完了する2テーマは、後継部会として設立し、先行研究部会は研究部会を新設することとなった。研究委員会の活動の活性化を検討し、研究部会の成果報告を委員会だけではなく、大会テーマセッション、シンポジウム、論文執筆などで議論する新たな体制を検討した。また、先行研究部会については運用細則を見直し、設立しやすい体制の検討を開始した。

国際交流では2025年9月にタイに拠点を持つ企業の技術者のレベルアップのため、「タイセミナー」を開催し、国内から講師を派遣し、116名と多くの参加があり好評であった。ALMA2026は、2026年秋期大会にて従来通りALMAミーティング、工場見学会、ALMAセッションを設定し開催することとした。また、国際賞再検討を開始した。

参加会は、本来の目的である参与との意見交換行場とし、参与会員などから話題提供を行い、軽金属を利用する立場からの意見をいただき、軽金属の将来に向けた研究・技術開発の進め方などを協議した。

男女共同参画事業では男女共同参画セッション第148回および149回大会で総務委員会と連携し、博士課程進学に向けた若手研究者への博士課程取得の現状と将来について議論を重ねた。

また、理事会回数を規程の「4箇月を超えない年7回以上」を「4箇月を超えない年4回以上」に変更、定時総会時の配布資料の電子化促進による紙使用大幅削減などの合理化を図った。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋講演大会の開催

1)第148回春期大会 完全対面開催

| | | |
|-----------|----------------|-------------------------------|
| 会期 | :2025年5月10-12日 | |
| 会場 | :北九州国際会議場 | 完全対面開催 |
| 実行委員長 | :徳永 辰也(九州工業大学) | |
| 定時総会 | :2025年5月14日 | 北九州国際会議場 メインホール |
| 研究発表講演 | :2025年5月15-16日 | 124件発表 |
| ポスターセッション | :2025年5月16日 | 対面2部構成にて開催 82件発表(日本語78件、英語4件) |
| 表彰式 | :2025年5月14日 | 北九州国際会議場 メインホール |
| レセプション | :2025年5月14日 | 北九州国際会議場 |
| 懇親会 | :2025年5月15日 | JRステーションホテル小倉 |
| 機器・カタログ展示 | :2025年5月15-16日 | 7社参加 |
| 企業研究会 | :2025年5月15日 | 15社+1団体参加 |

2)第149回秋期大会 ハイブリッド開催

| | | |
|-----------|------------------|-------------------------------|
| 会期 | :2025年11月13-15日 | |
| 会場 | :横浜国立大学・常盤台キャンパス | ハイブリッド開催 |
| 実行委員長 | :廣澤 渉一(横浜国立大学) | |
| 研究発表講演 | :2025年11月9-10日 | 123件発表 |
| ポスターセッション | :2025年11月9日 | 対面2部構成にて開催 74件発表(日本語71件、英語3件) |
| 表彰式 | :2025年11月8日 | 横浜国立大学 常盤台キャンパス |
| レセプション | :2025年11月8日 | 横浜国立大学 常盤台キャンパス |
| | | ものづくりイノベーションセンター1階 食堂 |
| 懇親会 | :2025年11月9日 | 横浜国立大学 常盤台キャンパス 第2食堂 |

機器・カタログ展示 :2025年11月9-10日
企業研究会 :2025年11月9日

6社参加
11社+1団体参加

2. シンポジウム、セミナー等の開催

| | 名 称 | 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 |
|---|---|---------------------|--------------------------|------|
| 1 | 軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」 | 2025年11月20日、 21日 | つま恋リゾート彩の郷 (完全対面) | 41名 |
| 2 | 軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編 (状態図と組織)」第15回 | 2025年12月22日 | 東京ブランチ(大阪大学) (ハイブリッド) | 47名 |
| 3 | 軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級 編(時効析出)」第14回 | 2026年3月9日 | 貸会議室 内海 (ハイブリッド) | 26名 |
| 4 | 第136回シンポジウム「アルミニウム製品の材料設 計、製造プロセスへの機械学習の活用」 | 2026年3月10日 | 東京ブランチ(大阪大学) (ハイブリッド) | 43名 |
| 5 | 軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編 (加工・熱処理による組織変化)」第12回 | 2026年3月13日 | 貸会議室 内海 (ハイブリッド) | 31名 |

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

1. 国際交流

1) ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2026 & Meeting

2026年秋期大会で開催予定のALMA2026について開催形式の検討を開始。ALMA Forumは従来講演大会の中でALMAセッションを設定し、オーストラリア、中国、韓国、台湾、日本の参加5か国からの招待者約10名の講演を実施したが、ALMA2026では秋期大会のそれぞれのセッションにALMA招待者の講演を設定し、英語での講演枠とするなどを大会運営委員会と連携し検討することとした。Meetingや見学会については従来通りForum前日開催する計画とした。

2) タイ研修会(タイセミナー)企画

第3回タイ研修会を2025年9月にタイにて実施した。日本からの講師8名、タイの講師2名とし、講義内容も見直し。また、参加費(800バーツ)を徴収しバンケットなども新たに取得し開催し、参加者116名と盛況であった。講義の内容は、第2回に実施した受講者からのアンケートをもとに、見直しを行い、通訳を廃止し、英語での講演および質疑応答とし、セミナーの効率化と経費節減を考慮した開催方法を試みた。

2. 産学官の連携

今年度の参与会は、昨年度から検討してきた参与会のあるべき姿を見直し、ここ数年実施した見学会を中心とした意見交換の方式から、本来の「軽金属を利用もしくは応用する産業界または公的機関において高度な学識または技術経験を有する方々より広い視点からの提言や助言を求める」とし、参与との意見交換を重視し開催することとした。具体的には、話題提供(2件)を実施し、参与の参加を促し軽金属の将来に向けた研究・技術開発の進め方などを参与からの意見をいただき、将来技術について議論した。2025年度の話題提供は、廣澤副会長より「短時間加熱ホットスタンピングを用いた高Si含有リサイクルアルミニウム合金展伸材の成形性の向上」、戸田会長より「放射光イメージングによる材料・部材の最適組織制御と水素脆化・応力腐食割れ防止への応用」2件とした。開催後は、アンケートを実施し、その結果を参考に今後の話題提供のテーマ決定し、継続実施をしていく。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会主催で開催の産学懇談会に経産省のオブザーバ参加のもと計4回参画し、日本アルミニウム協会研究助成など情報共有した。2025年12月7日には産学懇談会施設見学として富山大学高岡キャンパスに開設された「先進アルミニウム国際研究センター」を訪問しアルミニウムのリサイクル技術について意見交換した。日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ2025」の改訂に向け、研究委員会にて軽金属技術戦略ロードマップの見直しを行い、サイエンスロードマップとして掲載した。日本アルミニウム協会の研究助成事業では、2025年度成果報告6件、また2026年度については7件のテーマが選考され、同様に春秋大会での講演とともに、論文執筆への依頼を進めた。また、生産技術関連のテーマなどについて執行部同士の意見交換を実施した。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業に参画いただき、子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子供与の協力をいただいた。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

2024年度から後継部会として設立した「マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会」は、日本マグネシウム協会のメンバーの参画を得て、日本マグネシウム協会の会議室にて定期的に開催した。また、連載講座として進めている「マグネシウム合金の基礎と応用」については、製本化を計画しており、日本マグネシウム協会と協議のうえ具体化を進めていく。

研究部会として新設した「異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会」は、軽金属溶接協会の異材接合委員会と意見交換を行い、双方の強みを生かした研究を推進することとした。また、将来を見据え、アルミニウム合金板材と鋳物材(ダイカスト材)との接合に関する課題について議論を進め、次年度以降も継続して検討することとした。

第148回春期大会および第149回秋期大会のポスターセッションにおいて、軽金属の溶接・接合に関する優秀な発表に対し、軽金属溶接協会より「軽金属溶接協会ポスター発表賞」が授与され、計7名(第148回春期大会5名、第149回秋期大会2名)が表彰された。

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本金属学会との連携の一環として、講演大会の共同開催について大会運営委員会で WG を発足し、協議を開始した。日本工学会主催の事務研に参画し、情報共有した。日本金属学会、日本鑄造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本チタン学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などを継続した。また、春秋大会において他学会との開催次期が重ならないよう、軽金属学会の大会開催日を提供した。「女子中高生夏の学校 2025」では継続参画し、軽金属ならびに金属材料の魅力を中高生向けに PR した。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 75 巻 4-12 号、第 76 巻 1-3 号までの 12 冊のうち、第 75 巻 10 号は「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動と材料特性」特集、第 76 巻 2 号は「アルミニウム合金のひずみ速度感受性およびモデル化」特集として刊行した。第 75 巻 9 号には 2022 年より継続してミニ特集「アルミニウムによる脱炭素社会への取組み」を掲載した。掲載内容の分類は以下のとおりである。論文数の増加を目的として、講演大会における口頭およびポスター発表のうち、論文化にふさわしい内容については、編集委員から論文執筆を推奨する活動を実施した。財政健全化を視野に入れ、会誌の広告費などによる収入と発行・送料などにかかる支出を考慮しつつ、会誌完全電子化の早期対応に向けた検討を推進した。

共同刊行誌“Materials Transactions”へ、Regular Article 14 編(オリジナル 6 編、「軽金属」から英訳したもの 8 編)、Over View 1 編を掲載した。

| 区 分 | 編数 | 区 分 | 編数 | 区 分 | 編数 |
|--------|----|-----------|----|----------------|-----|
| 巻頭言 | 3 | 連載講座 | 5 | はぐくむ | 6 |
| 研究論文 | 36 | 随想 | 2 | 研究部会紹介 | 4 |
| 速報論文 | 3 | LM コラム | 6 | 私の一枚 | 0 |
| 解説 | 13 | 研究室／研究所紹介 | 1 | 学会便り | 12 |
| 技術報告 | 2 | 維持会員紹介 | 0 | 支部便り | 10 |
| 年間レビュー | 12 | 国際会議便り | 4 | ダイバーシティリレーエッセイ | 8 |
| 座談会 | 1 | 支部特集 | 11 | 掲載総数 | 139 |

2. 研究部会報告書の発行

2023 年度終了した 2 研究部会のうち 1 研究部会の報告書を発行した。

| No. | 名 称 | 発行 年月日 |
|-----|---------------------------------|-----------------|
| 90 | 6000 系アルミニウム合金の相変態挙動に関する研究部会報告書 | 2026 年 3 月 31 日 |

3. その他刊行物

| 名 称 | 発行 年月日 |
|--|-----------------|
| 第 148 回春期大会講演概要(冊子体、電子版) | 2025 年 4 月 16 日 |
| 第 149 回秋期大会講演概要(冊子体、電子版) | 2025 年 10 月 7 日 |
| 第 136 回シンポジウム「アルミニウム製品の材料設計、製造プロセスへの機械学習の活用」 | 2026 年 3 月 10 日 |

(2)2025 年度軽金属論文賞・論文新人賞

柴柳敏哉推薦委員長のもとで論文賞対象論文 39 編の内 9 編、新人賞対象論文 13 編(12 名)の内 5 編(5 名)の論文を推薦し、佐藤英一選考委員長のもとで 1 編(5 名)の論文賞、3 名の論文新人賞を選考した。

1)論文賞

- ①「Al-Cu および Al-Mg-Si 合金における GP ゾーン・ナノクラスタ形成過程および形状決定因子に対する数値解析」
 第 74 巻 12 号(2024), 535-545 掲載
 芝浦工業大学大学院 東海林 瑞希 君
 芝浦工業大学大学院 栗原 健輔 君
 日本原子力研究開発機構 Ivan Lobzenko 君
 日本原子力研究開発機構 都留 智仁 君
 芝浦工業大学 芹澤 愛 君

2)論文新人賞

- ①「Al-Si-Fe および Al-Si-Mn 3 元系共晶合金の凝固組織と熱力学計算の比較」
 第 75 巻 4 号(2025),190-198 掲載
 名古屋大学大学院 北 竣太 君
- ②「Al-Cu および Al-Mg-Si 合金における GP ゾーン・ナノクラスタ形成過程および形状決定因子に対する数値解析」
 第 74 巻 12 号(2024), 535-545 掲載
 芝浦工業大学大学院 東海林 瑞希 君
- ③「Al-Zn-Mg-Cu 合金の粒界におけるボイド形成・亀裂進展解析」
 第 75 巻 2 号(2025), 96-102 掲載
 岩手大学大学院(現 株式会社神戸製鋼所) 土屋 昇大 君

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

[4]研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

研究委員会は、継続研究部会 12 テーマに加え、2024 年度完了部会の後継部会として立ちあげた「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動および材料物性に関する研究部会」、ならびに、2024 年度先行研究部会 6 テーマから立ち上げた 4 テーマ、すなわち、「アルミニウム産業に関する工学的かつ経済学的な計量計算研究部会」、「異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会」、「水素貯蔵・輸送用アルミニウム合金研究部会」、「サーマルマネージメント材料技術研究部会」、さらに、新たに先行研究部会として立ち上げた「熱処理合金における析出現象の初期過程先行研究部会」の計 18 テーマ(内、生産技術関連 7 テーマ)により研究事業を推進した。また、前年度より委員会で協議してきた軽金属サイエンスロードマップを 2050 年まで拡張し改訂を図り、アルミニウムおよびアルミニウム合金に関する内容については、日本アルミニウム協会「アルミニウム技術開発ロードマップ 2025」に掲載した。また、研究進捗報告ならびに意見交換を含む研究委員会活動の進め方については、開催方法、議論活性化の方策、研究部会報告のあり方を改めて議論し、活動範囲拡張を目指す仕組みづくり、他常設委員会との連携強化の推進、「研究に係る議論の場」を設定することで各研究部会の活動状況を把握する、などの改善を進めた。「研究に係る議論の場」とは、講演発表・ポスター発表、テーマセッション、特集号、セミナー・シンポジウムの開催、論文投稿などで、各研究部会の活動方針と内容に合わせて選択していくこととした。2025 年度には一部の研究部会が春秋大会のテーマセッションを活用し成果を報告した。すなわち、第 148 回春秋大会では「キングの材料科学(I)」、「押出加工中の微細組織と集合組織の予測と制御」の 2 セッション、第 149 回秋期大会では「7000 系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」の 1 セッションを実施した。また、先行研究部会は、3 年間の実績を踏まえ、運用面での課題を明確化し、規程の見直しの検討を進めた。さらに、2026 年度の部会構成を検討し、2024 年度末から 1 年間期間延長した「アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会」および 2025 年度で 4 年目を迎えた「7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会」は活動完了とし、2026 年度から、それぞれの部会の後継部会として「飲料缶用アルミニウム合金板材の引張特性のひずみ速度感受性および高速成形に関する研究部会」および「7000 系アルミニウム合金の時効析出と耐 SCC 性・微量元素効果に関する研究部会」として設立することとした。さらに先行研究部会は期間終了とともに部会化を決定し、「析出現象のゆらぎと核生成・成長研究部会」として推進する。2026 年度は既設研究部会 15 テーマとともに合計 18 テーマで活動する。2025 年度の 17 研究部会および 1 先行研究部会の活動成果概要を下表に示す。

| No. | 部会名 | 課題 | 2025 年度研究成果概要 |
|-----|--|--|--|
| 509 | アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会 【活動期間】 2021年4月-2026年3月末 ⇒後継部会設立 | 新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得を行うとともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を行うことを目的とする。 | 開催 3 回(2025 年 6 月 5 日、9 月 17 日、2026 年 3 月 13 日)。 特集 2026 年 2 月号「アルミニウム合金のひずみ速度感受性およびモデル化」(技術報告 1 編、解説 1 編、研究論文 4 編)掲載 【活動内容・実績】 ①共通試料による評価 ・9 種の押出材を製造。A6082 ベースでリサイクルを模擬し Si、Fe、Cu を規格範囲外まで添加し、ひずみ速度感受性の調査を進めた。 ・特集号に向けた議論を行った。 ・データベース化の推進のため、データベースの形式を決定し、データの共有化を実施した。 ②部会内講演 添加元素の影響についての研究報告、引張試験データのフォーマットに関する提案。 ③後継部会に向けた薄板材のひずみ速度感受性に係わるデータの必要性検討。後継部会に向けた討議。 |
| 511 | 7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会 【活動期間】 2022年4月-2026年3月末 ⇒後継部会設立 | 7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動について、多角的な解析を行い、①時効初期の微視組織形成メカニズムの解明、②焼き入れ時の冷却速度と強度、組織、耐SCC性との関係解明、7000系ベークハードプロセスの可能性を見出す。 | 開催 2 回(2025 年 9 月 26 日、2026 年 3 月 16 日)。 公開セミナー開催(2025 年 6 月 24 日) 6000 系との合同セミナー開催(2026 年 3 月 26 日) ・テーマセッション「7000 系アルミニウム合金の時効析出と諸特性」(第 149 回秋期大会・講演 16 件)開催 【活動内容】 7000 系板材の焼き入れ速度に及ぼす時効特性および耐 SCC 性への影響(炉冷条件を変化させた場合の時効挙動の変化)を比較調査し、さらに、板材と押出材の比較調査を実施。 【活動実績】 (1) 話題提供 2 件 ①STEM 観察および EDS 分析による 7000 系合金の焼き入れ後の組織解析(齊藤元貴先生)、②1100 アルミニウムの強度に及ぼす熱間加工条件の影響(UACJ 田中様) (2) 共通試料による進捗 炉冷条件と時効硬化・ナノ組織形成挙動の関係調査、Mg 量の影響評価、X 線小角散乱による析出強化量の推定、GP I 形成過程のモンテカルロ計算を行い、炉冷とナノ組織形成の関連について新たな知見を得た。板材・押出材における耐 SCC 性評価を実施し、炉冷の有効性が示唆された。 |

| | | | |
|-----|--|--|---|
| 512 | <p>アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会</p> <p>【活動期間】 2024年4月-2027年3月末 (継続中)</p> | <p>アルミニウム板圧延におけるセンシング技術の現状と将来期待される姿について議論し、最終的には、デジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化に繋げる。</p> | <p>開催4回(2025年6月13日、9月12日、12月12日、2026年3月5日)。</p> <p>【活動内容・実績】</p> <p>①圧延機構成図作成、センサー活用事例一覧表のフォーマット確認、あるべき姿の提案を実施</p> <p>②圧延機構成図作成進捗確認、センサー活用事例一覧表の作成進捗確認、あるべき姿の検討、部会紹介の軽金属投稿用記事確認</p> <p>③圧延機構成図完成確認</p> <p>④センサー活用事例一覧表を暫定完成、活用事例集作成進捗確認</p> <p>⑤DX講演についてのメーカー選定等検討</p> |
| 513 | <p>アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会</p> <p>【活動期間】 2023年4月-2027年3月末 (継続中)</p> | <p>アルミニウム溶湯と接する耐火物の特性は、炉の性能・寿命のみならず、溶湯品質にも影響を及ぼす。そこで、耐火物劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積し、溶湯品質の向上および耐火物の開発に繋がる知見を得る。</p> | <p>開催3回(2025年4月16日、7月23日、11月21日)。</p> <p>【活動内容】</p> <p>①アルミナ-シリカ系耐火物のCa成分による劣化評価</p> <p>②耐火物劣化因子を考慮した新しい耐火物の検討</p> <p>③溶湯流動による耐火物の溶損評価</p> <p>④アルミナ質以外の耐火物のアルミニウム溶湯による劣化挙動調査</p> <p>【活動実績】</p> <p>①Ca成分の影響</p> <p>CaOも化学平衡に達するまではAl等により還元される可能性を示した。</p> <p>④アルミナ質以外の耐火物劣化</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶湯中または蒸気中のMgが耐火物内部へ侵入し、酸素と反応してMgOを生成する。生成したMgOはAl₂O₃と反応し、MgAl₂O₄(スピネル)を形成することを示した。 Al₂O₃-MgO系スピネル質耐火物のアルミニウム溶湯に対する耐浸透性評価を行っている。 <p>②と③については検討中。</p> |
| 514 | <p>中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会</p> <p>【活動期間】 2023年4月-2027年3月末 (継続中)</p> | <p>アルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式を構築において、圧盤・試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの影響を除くことが課題。これらの影響を軽減する新たな試験方法の開発もしくは解析における補正の方法について、詳細に検討する。</p> | <p>開催1回(2025年10月31日)。</p> <p>【活動内容・実績】</p> <p>①週1度大学メンバーによる研究報告会を実施</p> <p>②A6063板材による高温引張試験の実施</p> <p>③上記同ロットによるA6063板材による単純せん断による変形抵抗取得:中高温せん断試験実施</p> <p>④上記同ロットによるA6063丸棒材による単純ねじりによる変形抵抗取得:中高温ねじり試験実施</p> <p>⑤提案した塑性ねじりの基礎式の材料定数の同定:冷間試験での同定と上記④の結果の同定</p> <p>⑥引張試験,単純せん断,単純ねじりによる比較</p> |
| 601 | <p>押出加工中の溶着制御技術検討研究部会</p> <p>【活動期間】 2024年4月-2028年3月末 (継続中)</p> | <p>組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。</p> | <p>開催1回(2025年11月13日)。</p> <p>【活動内容・実績】</p> <p>参画会員の押出プレスを利用してA6063中空材を作成し、材料組織予測や集合組織予測を試みている。シミュレーションではAvramiの式を導入した再結晶体積分率と結晶粒径をA6063で算出して実験結果と比較を行った。押出製品では溶着部でない部分の予測は良好な近似を得られたが、さらにデータの収集が望まれた。</p> <p>次年度は、まず材質予測特に再結晶について予測の精度を高めることを試み、必要な材料データの収集を進めるとともに、A7003での押出実験を検討する。</p> |
| 602 | <p>アルミニウム合金中の水素評価研究部会</p> <p>【活動期間】 2024年4月-2028年3月末</p> | <p>アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやブリスターなどのミクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やミクロ欠陥制御による特性改</p> | <p>開催2回(2025年9月3日、12月3日)。</p> <p>【活動内容・実績】</p> <p>(1)外部講師の講演による情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨城大学 伊藤吾朗(2025年9月) 福岡大学 山辺 純一郎(2025年12月) <p>(2)部会委員の講演による情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪大学 堀川敬太郎:高感度水素マイクロプリント法 九州大学 戸田裕之:マルチディメンジョン・マルチスケール・マ |

| | | | |
|-----|--|---|---|
| | (継続中) | 善の可能性を議論する。 | ルチモータル計測とその各種構造材料への応用 ・原子力研究開発機構 山口正剛:刃状転位芯と水素、液体金属脆化に関する研究紹介 ・原子力研究開発機構 海老原健一:アルミニウムの水素昇温脱離曲線の解釈 など |
| 603 | マグネシウムのためのマテリアルDX研究部会 【活動期間】 2024年4月-2028年3月末 (継続中) | マグネシウム合金開発へのマテリアルDX(データ科学を活用した研究開発の効率化・高速化と、これらを通じた研究開発環境の魅力向上)の適用可能性を検討する。マグネシウムの機械的特性, 成形性, 耐食性等を対象として, データ科学を専門としない研究者が利活用可能なマテリアルDX技術を創出する。 | 開催4回(2025年5月16日、8月4日、11月21日、2026年3月24日)。 【活動内容】 材料解析 Web アプリケーション(MaterInfo)を活用して、これまでに取得したマグネシウム合金データベースを利用した各種特性予測を行う。具体的には、マグネシウム合金の室温成形性、発火特性、耐食性等に及ぼす特徴量(材料組成、組織、プロセスパラメータ等)の影響を予測するための回帰分析を行う。 【活動実績】 ・マグネシウム合金の実験データベースの整理 ・材料解析 Web アプリケーション(MaterInfo)を利用した特徴量の回帰分析 |
| 604 | キンク研究部会 【活動期間】 2024年4月-2028年3月末 (継続中) | ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高く、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みるとともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。 | 【活動内容】 ①Mg基、Al基、Ti基の硬質/軟質層状物質の創製を試みる。 ②キンク強化メカニズム解明の体制を構築する。 ③春期講演大会のテーマセッション「キンクの材料科学(I)」の実施。 ④研究部会を開催して、物質創製の方針ならびにメカニズム解明の方針と体制を議論して決定する。 【活動実績】 ①研究部会の開催(合同開催年2回) ②講演大会テーマセッションの開催(年1回) ・テーマセッション「キンクの材料科学(I)」(第148回春期大会・講演19件)開催 ③国際会議セッションなどの企画・開催 ・MRM2025(横浜)において、セッション「Kink-strengthened materials」(講演6件)合同開催 ・高性能 Mg 合金創成加工研究会第96回講演会において、セッション「計算科学の利用によるマテリアルデザインの可能性」(講演3件)合同開催 ・THERMEC2025(フランス)において、セッション「LPSO/MFS Materials / Microstructure & Kink Strengthening」(講演12件)合同開催 ④前研究部会の報告書の作成 |
| 605 | アルミニウム(合金)の不純物制御研究部会 【活動期間】 2024年4月-2028年3月末 (継続中) | サーキュラーエコノミーの実現に向けたアルミニウム合金のリサイクルでは、不純物元素の制御が不可欠である。さらに、不純物除去や不純物制御による許容量拡大が併せて必要になる。そこで本研究部会では、不純物増加に伴う材料特性への影響および改善方法について、晶出物等のマイクロ組織的要因と結びつけて明確化を進める。 | 開催3回(2025年6月2日、10月10日、2026年3月10日)。 第150回春期大会テーマセッション企画 【活動内容】 ①展伸材に関する共通試料の設定と活動内容の検討 ②鋳物・ダイカスト合金に対するリサイクル原料配合の許容度検討 ③話題提供によるリサイクル研究に関する情報共有 【活動実績】 ・不純物 Fe,Si を増加した自動車用板材に関する評価内容検討 ・押出による不純物化合物の無害化検討 ・リサイクル原料の配合を許容できる合金の検討と、生成する金属組織の予測 ・話題提供6件 |
| 606 | アルミニウム層の合金判別研究部会 【活動期間】 2024年4月-2028年3月末 (継続中) | アルミニウムにおけるスクラップ利用の課題は、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金が混合されることによる不純物元素の増加であるため、スクラップ(固相状態)で適切な選別を行うことが必須である。そこで本研究部会では合金判別のための基礎データを構築 | 開催3回(2025年6月2日、11月10日、2026年3月10日)。 【活動内容】 高度選別技術(LIBS)を用いずに、アルミニウム層の合金判別を図るために、各種アルミニウム合金の物性値、機械的性質、表面処理性、破断・破砕形状等のデータを整備する。 【活動実績】 ・先行調査として、調質O材のA1050およびA5052の破砕片を対象に機械学習を用いることで、破砕後の外観形状の違いによる識別が高確率(正解率80%以上)に可能であることを明らかにし |

| | | | |
|-----|--|--|---|
| | | し、選別技術発展の礎を築くことを目的に活動を実施する。 | た。 ・機械学習モデルの決定に応じ、識別対象の合金明細として A3003 および A6061 を加えて 4 種、それぞれ調質 O 材と H もしくは T 材の合計 8 種類(4 明細×2 調質)にすることに合意。 ・機械学習の教師データとして、各試料の破碎ままおよび破碎後に熱処理や化成処理を施したサンプルを用意。今年度はアノテーションまで実施し、2026 年度にモデル精度向上を進める予定。 |
| 607 | アルミニウム溶解工程における Mg,Fe 低減技術研究部会 【活動期間】 2024年4月-2028年3月末 (継続中) | 将来的なCNへの対応として市中スクラップの更なる利用要求が高まっているなか、市中スクラップを溶解したアルミニウム溶湯中ではMgやFe成分値が増加し、これに伴い製品の品質低下が懸念される。本研究部会では、アルミニウム溶解工程におけるMgとFeを除去する技術として、酸化物によるMgの除去と、B化によるFeの除去についてフラックスの有効利用法も含め、基礎的な検討と生産現場へ実装可能なプロセスを検討する。 | 開催 2 回 (2025 年 3 月 5 日 2025 年 12 月 15 日)。 【活動内容・実績】 ① GaOらにより報告されている B 化による Fe の除去の既報文献をもとに、研究部会内における脱 Fe 実験の共通条件を決定 ② Fe ₂ O ₃ を酸化剤とした脱 Mg 実験の共通条件を決定 ③ 研究部会での共通試料条件である Al-0.33mass%Fe を対象とした脱 Fe 実験および ADC12 を対象とした脱 Mg 実験および脱 Fe 実験を計画し、委員の実験担当を決定 脱 Mg 実験および脱 Fe 実験の結果の報告と今後の進め方について協議 |
| 701 | 6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会 【活動期間】 2025年4月-2029年3月末 | 6000系合金特有の現象(二段時効の負の効果など)についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やβ”相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。 | 開催 3 回(2025 年 8 月 28 日、2026 年 1 月 15 日、2026 年 3 月 26 日)。 【活動内容・実績】 ●第 1 回:6 件の講演による、質疑応答を実施 ①Al 合金あるいは Al 含有金属間化合物の最近のミュオン測定結果、②最近の Al 系金属間化合物 Al ₃ Zr, Al ₃ Y, Al ₃ Zr _x Y _(1-x) 等の析出物の DFT 計算、機械学習、③Cu 添加した過剰 Si 型 Al-Mg-Si 合金のマイクロ組織、④Al-Si-Mg 系鋳造合金の時効、⑤7000 系合金中の T'相、⑥β-Mg ₂ Si 相の形状と界面 ●第 2 回:2 件の講演による質疑応答を実施 ①6000 系合金板の曲げ加工性に影響を及ぼす因子、②Fe および Si を多く含む Al-Mg-Si 合金の微視的組織が曲げ加工時の亀裂進展に及ぼす影響 ●第 3 回:アルミニウム合金系を横断した析出挙動の理解(7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会との合同セミナー) 2 件の講演による質疑応答を実施 ①Understanding of precipitation behavior across alloy systems、② Impact of atomic couples and pairs on quenched-in vacancies in Al-Mg-Si-Cu alloys |
| 702 | アルミニウム産業の脱炭素に関する工学的かつ経済学的な計量計算研究部会 【活動期間】 2025年4月-2029年3月末 | アルミニウム産業の脱炭素に関し、アルミニウムの軽量性、リサイクル性、伝導性、加工性等を訴求していくことが必要であり、その基礎となる数値の計量手法の確立を目指す。先行研究部会での実績を進展させ、アルミウム材料としてのCO ₂ 負荷量(循環利用の効果を含む)及びアルミニウムの使用側でのCO ₂ 削減量への貢献に関し、学術(工学及び経済学)とともに実用の観点から、計量手法を確立する。 | 開催 10 回 (部会:2025 年 6 月 12 日、12 月 22 日、2026 年 3 月 23 日、 分科会①:2025 年 8 月 27 日、11 月 28 日、2026 年 3 月 12 日、 分科会②:2025 年 8 月 1 日、9 月 17 日、2026 年 1 月 22 日、2 月 4 日) 【活動内容】 (1)アルミニウムの CO ₂ 負荷の計量計算 (2)アルミニウム使用による CO ₂ 削減効果の計量計算 【活動実績】 (1)アルミニウムの CO ₂ 負荷の計量計算 ・アルミニウムのマテリアルフロー (MF) について、推計の精緻化を図った。 ・MF に基づき、アルミに係る CO ₂ 負荷量の推移を試算した。 ・リサイクル材含有率の計算方法について検討を進めた。 (2)アルミニウム使用による CO ₂ 削減効果の計量計算 ・次の専門家による講演会を開催した。 ①リョービ(株)「ギガキャストの技術的特徴」 ②BlueRebirth 協議会「Car-to-Car 資源循環に向けた使用済み自動車の自動精緻解体」 ③みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)「太陽光発電パネルのリサ |

| | | | |
|-----|--|--|--|
| | | | イクルにおけるアルミの位置付け」 |
| 703 | 異種金属接合材の組織形成と信頼性に関する研究部会 【活動期間】 2025年4月-2029年3月末 | 種々の先端接合技術を用いたアルミニウム/銅接合材やアルミニウム/銅接合材の接合界面組織の観察・分析および特性評価試験を行い、組織と特性の関係を検討する。得られた結果を基に、異種金属接合材における接合信頼性を確保するために必要な組織形態を明らかにする。 | 開催3回(2025年5月1日, 8月1日, 11月4日)。 【活動内容】 供試材の決定 供試材の準備方法の決定 【活動実績】 Al/Fe 接合には A6061 と 980 級高張力鋼板を用いること, Al/Cu 接合における Al には A1050, A3003, A6063, Cu には C1020 を用いることが決まった. Al 合金と Cu 合金は日本軽金属(株), 高張力鋼板は(株)神戸製鋼所にて入手する。 |
| 704 | 水素貯蔵・輸送用アルミニウム合金研究部会 【活動期間】 2025年4月-2029年3月末 | アルミニウム合金は、水素貯蔵・輸送用材料として、一部使用され、今後の利用拡大が期待されている。しかし、これまでに使用実績のある合金は少なく、また特に高圧力下では、使用が認められている合金は限られている。そこで、各用途における水素環境下での使用に適したアルミニウム合金を選定し、それら使用する上で必要な評価手法等について検討する。 | 開催3回(2025年6月20日, 10月3日, 12月3日(JAXA訪問))。 【活動内容・実績】 2025年度は、各用途に関する現状および基礎となる評価技術に関する情報共有を実施した。2回の研究部会では、先行研究部会での検討事項に関する情報共有と、実用上の課題及びそれを解決するための研究テーマ案や共通試料の可能性について議論した。また、液体水素環境下での特性評価に関して、ロケット燃料タンクへのアルミニウム合金の使用実績を有する JAXA 宇宙輸送技術部門 H3 プロジェクトチーム寺島啓太様からお話を伺い、安全に材料を使用する上でのじん性の基準値に対する考え方などを議論した。 |
| 705 | サーマルマネージメント材料技術研究部会 【活動期間】 2025年4月-2029年3月末 | 生産技術系部会として、熱エネルギーに関わる様々な問題を取り扱うサーマルマネージメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムなどの軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化する。対象材料の選定、高熱伝導化、異方性の付与、機械的性質と熱伝導性の両立、界面熱伝達率の評価法の確立および学術的解析、金属材料や複合材料の組織制御、材料表面の形態などを重要課題とし活動する。 | 開催1回(2025年10月9日)。 【活動内容】 (1) 会員同士のニーズの把握, 情報交換, 話題提供 (2) サーマルマネージメント材料の活利用の調査 (3) 外部講師による講演 (4) 具体的な部会テーマおよび活動内容の検討および決定 【活動実績】 1. 陽極酸化処理を施したアルミニウム放熱板の特性について 外部講師より, 講演いただき, 高熱伝導高耐食放熱板の可能性について情報交換を行った。 2. 放熱板用アルミニウム合金の開発状況について 部長より話題提供を行った。 3. 日本アルミニウム協会 「アルミニウム技術戦略ロードマップ 2025(冊子版)」の紹介と本研究会の関連について議論を行った。 4. 今後の進め方に対する議論を行い, 物質間(固体と液体)間の熱移動の解析について重点的に調査することとした。 |

[先行研究部会]

| | 先行研究部会名 | 課題と検討概要 | 活動実績 |
|-----|--------------------------|--|---|
| 710 | 熱処理合金における析出現象の初期過程先行研究部会 | 熱処理合金における等温熱処理の初期過程である析出物の核形成過程と析出核成長過程の解明のため、名古屋大学の電子顕微鏡とあいちシンクロtron光センターの放射光X線小角散乱を用いて等温下(<600°C)でのその場観察を行い、析出物核とその成長の時間変化の定性描写を通して過程解明を試みる。両手法の得失を補完し合い研究を進める。先行研究部会では、この手法が解明に有効か否かの判断を行い、有効であると判断できれば研究部会として活動する。 | 2026年度より「析出現象のゆらぎと核形成・成長 研究部会」として活動することとした。 |

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考し、理事会の承認を得て、(1)および(7)を2025年5月開催の第148回春期大会にて表彰、(2)~(5)および(7)2)を2026年11月開催の第149回秋期大会にて表彰した。(6)は2026年3月上旬に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。

(1)2025 年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

佐々木元選考委員長のもと、3つの賞について審議の結果、学会賞は応募2名から1名を、功労賞は応募5名から3名を、功績賞は応募5名のうち2名をそれぞれ下記のとおり選考した。2025年5月開催の第148回春期大会にて表彰した。

| | | |
|----------------|------------|---------|
| 1)第28回軽金属学会賞 | 熊本大学 教授 | 河村 能人 君 |
| 2)第27回軽金属学会功労賞 | 株式会社UACJ | 水越 秀雄 君 |
| | 千葉工業大学 | 本保元次郎 君 |
| | 株式会社神戸製鋼所 | 吉原 伸二 君 |
| 3)第23回軽金属功績賞 | 東京都立大学 教授 | 北菌 幸一 君 |
| | 名古屋工業大学 教授 | 萩原 幸司 君 |

(2)2025 年度軽金属論文賞・論文新人賞

柴柳敏哉推薦委員長のもとで論文賞対象論文39編の内9編、新人賞対象論文13編(12名)の内5編の論文を推薦し、佐藤英一選考委員長のもとで1編(5名)の論文賞、3名の新人賞を選考した。

1)論文賞

①「Al-Cu および Al-Mg-Si 合金における GP ゾーン・ナノクラスタ形成過程および形状決定因子に対する数値解析」

第74巻12号(2024), 535-545 掲載

| | |
|-------------|-----------------|
| 芝浦工業大学大学院 | 東海林 瑞希 君 |
| 芝浦工業大学大学院 | 栗原 健輔 君 |
| 日本原子力研究開発機構 | Ivan Lobzenko 君 |
| 日本原子力研究開発機構 | 都留 智仁 君 |
| 芝浦工業大学 | 芹澤 愛 君 |

2)論文新人賞

①「Al-Si-Fe および Al-Si-Mn 3 元系共晶合金の凝固組織と熱力学計算の比較」

第75巻4号(2025),190-198 掲載

| | |
|----------|--------|
| 名古屋大学大学院 | 北 竣太 君 |
|----------|--------|

②「Al-Cu および Al-Mg-Si 合金における GP ゾーン・ナノクラスタ形成過程および形状決定因子に対する数値解析」

第74巻12号(2024), 535-545 掲載

| | |
|-----------|----------|
| 芝浦工業大学大学院 | 東海林 瑞希 君 |
|-----------|----------|

③「Al-Zn-Mg-Cu 合金の粒界におけるポイド形成・亀裂進展解析」

第75巻2号(2025), 96-102 掲載

| | |
|----------------------|---------|
| 岩手大学大学院(現 株式会社神戸製鋼所) | 土屋 昇大 君 |
|----------------------|---------|

(3)第60回小山田記念賞

廣澤渉一選考委員長のもと、応募1件について選考委員会によるプレゼンテーション審査の結果、当該技術1件を選考した。「高強度アルミニウム熱間鍛造の新プロセスの開発」

| | |
|------------|---------|
| トヨタ自動車株式会社 | 鈴木 一広 君 |
| 〃 | 殿園 広 君 |
| 〃 | 小林 岳人 君 |
| 〃 | 浅井 千尋 君 |
| 〃 | 山田 正洋 君 |
| 〃 | 五十川雅之 君 |
| 株式会社神戸製鋼所 | 阪本 正悟 君 |
| 〃 | 堀 雅是 君 |

(4)第49回高橋記念賞

倉本 繁選考委員長のもと、各支部からの推薦2件について選考委員による書面審査の結果、2名を選考した。

| | |
|-----------|---------|
| 株式会社神戸製鋼所 | 菊永 尚文 君 |
| 株式会社UACJ | 成瀬 隆 君 |

(5)軽金属躍進賞・奨励賞・女性未来賞

鈴木真由美選考委員長のもと、3つの賞について審議し、躍進賞は応募5名から3名を、奨励賞は応募3名から3名を、女性未来賞は応募1名から1名を選考した。

| | | |
|--------------|----------|---------|
| 1)第24回軽金属躍進賞 | 富山大学 | 石本 卓也 君 |
| | 鳥取大学 | 清水 一行 君 |
| | 群馬大学 | 西田 進一 君 |
| 2)第43回軽金属奨励賞 | 大阪大学 | 奥川 将行 君 |
| | 株式会社UACJ | 高谷 舞 君 |
| | 九州大学 | 藤原 比呂 君 |

(6)2025 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 34 名について、総務委員会による二次選考の結果、34 名を選考した。

| 所 属 | 氏 名 | 所 属 | 氏 名 |
|----------------|--------|-----------------|---------------------|
| 室蘭工業大学大学院・修士課程 | 高橋 健太 | 芝浦工業大学大学院・修士課程 | 六沼 実優 |
| 室蘭工業大学大学院・修士課程 | 下中 稜也 | 茨城大学大学院・修士課程 | 熱海 聡多 |
| 東北大学大学院・修士課程 | 佐々木 和真 | 富山大学大学院・修士課程 | Wanlalak Sanphiboon |
| 群馬大学大学院・修士課程 | 長竹 真吾 | 富山大学大学院・修士課程 | 吉田 理央 |
| 千葉大学大学院・修士課程 | 水沼 友希 | 富山大学大学院・修士課程 | 小倉 佑太 |
| 群馬大学大学院・修士課程 | 松村 省吾 | 富山大学大学院・修士課程 | 鄒 堯飛 |
| 芝浦工業大学大学院・修士課程 | 松井 偉央 | 名古屋大学大学院・修士課程 | 小倉 広耶 |
| 東京都立大学大学院・修士課程 | 吉永 みのり | 名古屋工業大学大学院・修士課程 | 關山 史門 |
| 茨城大学大学院・修士課程 | 湯田 浩登 | 大同大学大学院・修士課程 | 加藤 涼介 |
| 芝浦工業大学大学院・修士課程 | 白田 悠斗 | 兵庫県立大学大学院・修士課程 | 保坂 利晃 |
| 東京都立大学大学院・修士課程 | 高坂 真生 | 兵庫県立大学大学院・修士課程 | 稲村 慧 |
| 茨城大学大学院・修士課程 | 永井 竜太 | 神戸大学大学院・修士課程 | 山本 貴大 |
| 茨城大学大学院・修士課程 | 田中 稜大 | 大阪大学大学院・修士課程 | 宮澤 啓太郎 |
| 群馬大学大学院・修士課程 | 石貝 拓磨 | 広島工業大学大学院・修士課程 | 杉田 翔栄 |
| 千葉大学大学院・修士課程 | 岩瀬 広也 | 熊本大学大学院・修士課程 | 坂本 青音 |
| 芝浦工業大学大学院・修士課程 | 藤原 由奈 | 熊本大学大学院・修士課程 | 石嶺 伝秦 |
| 茨城大学大学院・修士課程 | 美濃部 龍 | 九州大学大学院・修士課程 | 竹田 昌輝 |

(7)優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、2024 年度は以下の通り春期大会で 15 名、秋期大会で 13 名を表彰した。このうち、第 135 回秋期大会より新設した優秀英語ポスター発表賞は春期大会で 2 名、秋期大会では 1 名を表彰した。

1)第 148 回春期大会

| 題 目 | 所 属 | 氏 名 |
|--|----------|-------|
| HR-EBSD 法と SEM-DIC 法により測定した Ti-6Al-4V 合金中の微視的な応力・ひずみ分布 | 九州大学 | 檜崎 淳也 |
| Al-Si-Mg 及び Al-Sn-Mg 铸造合金の凝固組織に及ぼす冷却速度の影響 | 名古屋大学 | 若井清翔 |
| レーザ粉末床溶融結合法により作製した過共晶 Al-20Si 合金の力学特性に及ぼすレーザ条件の影響 | 名古屋大学 | 松井孝矢 |
| AC7A アルミニウム合金双ロール铸造板の表面模様と及ぼすノズル先端角度の影響 | 東京電機大学 | 井上晏花 |
| ホットスタンピングによるリサイクル Al-Si-Cu-Mg 合金の成形性の向上 | 横浜国立大学 | 吉池諒翔 |
| Al-Mg 合金における β 相の析出挙動に及ぼす Mg 濃度の影響とそのモデル化 | 横浜国立大学 | 小野寺諒 |
| アルミニウム合金上に作製した AlO(OH)皮膜とエポキシ系接着剤の接着強度における明 | 芝浦工業大学 | 田中駿匡 |
| Al-Mg-Si 合金における 2 種類のナノクラスタの形成挙動に及ぼす中断焼入れの影響 | 芝浦工業大学 | 篠崎 遼 |
| Ti-Nb-Zr 系合金のマルテンサイト変態とナノ組織の関係 | 長岡技術科学大学 | 高橋 凧 |
| ARB により作製した Mg/Zn 複合材の組織と引張特性 | 熊本大学 | 平出 想 |
| γ -TiAl 基合金のセル状析出反応による組織形成とその組織安定性 | 千葉大学 | 正木翔大 |
| T 相析出型 Al-Zn-Mg 合金の水素脆性における外部水素の影響 | 鳥取大学 | 志岐魁斗 |
| 3DAP による新奇 Al-Zn-Mg 合金の組織解析 | 鳥取大学 | 福岡友也 |
| 蒸気コーティング法の蒸気源の再利用が AZ91D マグネシウム合金上に作製した皮膜の耐食性に及ぼす影響 | 芝浦工業大学 | 厚海有紀 |
| TiAl-Ti ₂ AlC 複合材料の微細組織と力学特性に及ぼす N 添加効果 | 熊本大学 | 村上明陽 |
| Ti-Nb 合金 α'' 相の昇温過程における相変態に及ぼす酸素添加の影響 | 愛媛大学 | 中江友哉 |
| アルミニウムバイポーラアノード酸化の皮膜生成効率に及ぼす電解液物性の影響 | 工学院大学 | 佐竹竜乃介 |

※ハッチングの2件が優秀英語ポスター発表賞

2)第 149 回秋期大会

| 題 目 | 所 属 | 氏 名 |
|---|----------|--------------|
| 単結晶準安定 β 型チタン合金の塑性変形挙動に対するナノ ω 相の影響 | 大阪大学 | 山内悠司 |
| 冷間圧延と低温焼なましを用いた低濃度 Mg-1.5Zn-0.1Ca(mass%)合金の曲げ成形性と引張特性の同時改善 | 長岡技術科学大学 | 仲江勇登 |
| Mg-Zn 合金圧延材の引張特性と耐食性に及ぼす Mn 添加および均質化処理の影響 | 長岡技術科学大学 | 阿久津英司 |
| 放電プラズマ焼結法を利用した 6000 系アルミニウム合金易解体リベットの作製 | 群馬大学 | 須永來夏 |
| 不溶性高分子を含む電解液中におけるアルミニウムのアノード酸化 | 工学院大学 | 森本快大 |
| Swaging 加工が Mg-9Al-1Zn-xCa 合金の微細組織と機械的特性に与える影響 | 東北大学 | 武石宙大 |
| 濃度変調を利用した Ti-Fe 合金のヘテロ組織形成と強度-延性バランス向上 | 富山大学 | 吉田理央 |
| 頭蓋骨用インプラント適用に向けたチタン合金基オープンセル構造体の衝撃エネルギー吸収特性 | 神戸大学 | 山本貴大 |
| 圧縮ねじり加工における加工条件が A7050 合金の微細組織に及ぼす影響 | 名古屋工業大学 | 細野 凜 |
| 大気圧プラズマ処理を用いたアルミニウム合金への表面改質が AlO(OH) 皮膜の形成に及ぼす影響 | 芝浦工業大学 | 菅野 遼 |
| Mg-Y-Zn 合金の成分希薄化と Al の添加による耐食性改善 | 熊本大学 | 石嶺伝泰 |
| LPSO 体積分率低減が Mg-Y-Zn 系希薄合金押出材の機械的特性に及ぼす影響 | 熊本大学 | 竹中航大 |
| 水蒸気プロセスによって作製した AlO(OH) 皮膜における熱クラックの発生および進展メカニズムの解明 | 芝浦工業大学 | 渡辺 悟 |
| Precipitation Microstructure and Anisotropic Mechanical Behavior of Stress-Aged Al-Cu-Mg-Ag alloy | 東京科学大学 | JEON HYUNSUP |

※ハッチングの 1 件が優秀英語ポスター発表賞

[6]その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条 1 項第 6 号)

1. 人材育成

本部において、大学オープンキャンパスなどへの軽金属製品の供与・貸与事業を継続し、また、昨年同様、夏以外に秋のオープンキャンパスなどを開催する大学へも対応した。小中高生、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。今回も特別維持会員および維持会員企業、日本アルミニウム協会の協力により、9校に製品を提供した。各校のオープンキャンパスの開催状況については報告記事「はぐくむ」を会誌、HPに掲載した。男女共同参画委員会では、昨年同様、男女共同参画学協会連絡会が後援し、8月9日に開催された「女子中高生夏の学校2025」に継続参画し、全国の女子中高生に対して金属および軽金属に興味を持っていただくため軽金属学会ポスター展示、缶製造サンプル、金属材料質量比較サンプルなどの展示説明のほか、「実験」・「実習」などを行った。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

(1)若手の会

第48回会合:第148回春期大会(5月18日(日))にハイブリッド式で開催した。大学3名、学生10名、企業9名、会員の子供2名の合計24名が参加。4グループに分かれて交流。その後、日本軽金属(株)・坂下氏により、海外研修での業務を含めた経験の話題提供があり、活発に意見交換された。

第29回若手育成のための合同会合:第148回春期大会(5月16日(金))に開催した。大学1名、学生3名、企業5名、の合計9名が参加。

第49回会合:第149回秋期大会(11月9日(日))にハイブリッド開催した。大学3名、学生8名、企業12名の合計23名参加。株式会社UACJ・赤谷優太郎氏より「研究活動におけるプロセス理解の楽しさと重要性」というテーマで講演いただき、活発な議論が交わされた。

第30回若手育成のための合同会合:第149回秋期大会初日(11月7日(金))に開催し、大学1名、学生3名、企業4名の合計8名が参加。

(2)女性会員の会

第38回会合:第148回春期大会(5月17日(土))にハイブリッド式で開催した。現地参加17名、オンライン参加3名の合計20名参加(女性16名、男性4名、うち初参加は社会人1名、学生2名の3名)。大会未登録者の参加可能とし、育児中、海外留学中の会員などの参加や飛び入りでの参加もあった。託児室利用の子供2名が参加し盛況であった。

託児室設置:第148回春期大会(ハイブリッド開催)は、会場内に託児室を設定し、保育スタッフはNPO法人チャイルドケアセンターに委託した。

第4回懇親会子供同伴:148回春期大会懇親会で4回目となる会員の子供を同伴した懇親会への参加を本設定とし、ノンアルコールエリアを設定し、託児室を利用された子供たちが数名の参加があった。

第39回会合:第149回秋期大会(11月8日(土))にハイブリッド式(7回目)で開催した。参加者合計20名(女性16名、男性4名)。現地参加19名、オンライン参加1名、幼児の参加1名(託児室利用者)。現地飛び入り参加あり。初参加

者は企業1名、学生2名となった。

託児室設置:第149回秋期大会では会場である横浜国立大学内の畳上の教室を託児室として設定し、大会期間中に数名の利用があった。保育スタッフは外部業者に委託した。

第4回懇親会子供同伴:149回秋期大会懇親会(11月8日(土))、会員の子供を同伴して懇親会参加が第4回目となった。
ノンアルコールエリアの設定を定着させて、会員の子供の参加を継続していく。

(3)男女共同参画委員会

第12回男女共同参画セッション:第148回春期大会(5月17日(土))にハイブリッド式で男女共同参画委員会と総務委員会の合同企画として開催した。「未来の研究者たちへ～博士進学で新たな境地をつかめ～企業編」として、パネルディスカッション式で開催し、鈴木教授(早稲田大学)の進行いただき、企業より鈴木氏(日本軽金属㈱)、大町氏(㈱UACJ)の3名をパネリストし、博士号取得の経験談などをもとに、博士課程進学に向けた将来についての可能性を議論した。

第13回男女共同参画セッション:第149回秋期大会(11月8日(土))にハイブリッド開催した。「未来の研究者達へII～博士学生の今と未来～」と題し、第12回に引き続き、現状の博士進学の状態の理解、学生側からは企業で活躍する博士修了者の情報収集を目的に実施。大会会場である横浜国立大学の大学院生を中心に構成される学生団体CurioSeedsに所属する4名に講演いただく。博士の学位が企業においてどのような役割をもつかを明らかにすることの重要性や株企業における博士の学位がもつ意味などについて、未来の研究者に向けた課題を議論した。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の支援を目的に各支部で中堅企業支援セミナーを開催した。北陸支部では2025年12月8日にウィング・ウィング高岡において、(株)ブリジストン 吉田真樹氏から「空気を不要にするブリジストンの次世代タイヤ「AirFree®」、独立行政法人鉄道建設 永利将太郎氏から「北陸新幹線敦賀開業について」、(株)TAN-EI-SYA 栗原一聡氏から「鍛造技術活用による多様化する製品需要」の3件の招待講演を実施した。中国四国支部では同年12月17日に、広島市工業技術センターにおいて開催し、奥野製薬工業(株) 原 健二氏より「アルミニウムのアノード酸化プロセスにおける技術動向」、芝浦工業大学 工学部 石崎 貴裕 教授より「蒸気コーティングを利用したマグネシウム合金の表面処理」の2件の招待講演を実施した。関西支部では、2026年3月4日に(地独)大阪産業技術研究所 和泉センターにおいて(地独)大阪産業技術研究所との共催で開催し、講演7件、見学会を実施した。中堅企業会員へは支部活動の一環として定期的な支援セミナーを実施することで、軽金属に関わる最新の研究開発や技術動向についての情報共有を行うとともに技術交流を図っている。これらの活動による実績として、東北支部より1社、東海支部より1社の合計2社が維持会員として入会いただいた。また、東海支部より推薦された「東金属産業株式会社」には軽金属企業奨励賞を授与した。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

| 計画 | 2025年度上期活動実績・下期計画 |
|---|--|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会 5月にハイブリッドで予定 2.講演会等 ①支部講演大会:10月 札幌 ②講演会:随時 ③他学協会支部講演大会等への協賛 ・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同サマーセッション(7月)と講演大会(2006年1月)に協賛 ・工場見学会とセミナーの協賛 (一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催、工場見学会と2025年北海道夏期セミナーに協賛 3.人材育成 ・若手育成支援事業 4.表彰関係 ・軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ・学生優秀講演賞 5.維持会員加入勧誘活動 ・訪問活動継続 | 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ・支部会議 5月17日開催(北九州)昨年度の事業報告と2025年度予算、活動計画について。支部評議員会、講演会活動などについて。 2027年度軽金属学会全国大会について。支部長交代の報告。 ・支部会議 12月20日開催(札幌) 軽金属希望の星賞応募状況および来年度軽金属学会全国大会開催の報告、ならびに来年度支部講演会の開催について協議。 2. 講演会等 ① 支部講演大会(特記事項参照) ② 講演会:未実施 ③ 他学協会支部講演大会等への協賛 ・工場見学会とセミナーの協賛 (一社)表面技術協会と(公社)腐食防食学会北海道支部主催、工場見学会と2025年北海道夏期セミナー(7月、千歳)に協賛した。 ・日本鉄鋼協会・日本金属学会両北海道支部合同サマーセッション(7月、室蘭)に協賛した。 ・日本鉄鋼協会・日本金属学会・腐食防食協会三支部合同冬季講演会(12月、札幌)に協賛した。 3.人材育成:未実施 4.表彰関係 ・軽金属希望の星賞選考。支部講演大会講演賞を授与。(特記事項参照) 5.維持会員加入勧誘活動 継続して実施予定 |
| 特記事項) | 北海道支部講演会(12月、札幌)を実施した。最優秀講演賞:竹内脩斗君(北海道大)、優秀講演賞:下中稜也君(室蘭工 |

大)。特別講演:徳永透子助教(名古屋工大)。
 ・日本鉄鋼協会・日本金属学会・腐食防食協会三支部合同冬季講演会(12月,札幌)に協賛した。
 ・軽金属希望の星賞:高橋健太君(室蘭工大),下中稜也君(室蘭工大)。
 ・2027年度軽金属学会全国大会の実行委員長に坂入准教授(北海道大)を選出し,支部委員会で承認された。

(2)東北支部

| 計 画 | 実施状況 |
|--|--|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会(2回) 2.講演会等 ①主催講演会(2回) ②共催・後援行事(3回) 3.人材育成 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③軽金属学会賞推薦 ④軽金属学会功労賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 | 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ・6月幹事会(紙上) 2.講演会等 ①・12月10日(水)東北支部講演会(櫻井健夫氏・弘前市) ・2月18日(水)東北支部セミナー(仙台市)(日本バイオマテリアル学会東北ブロック交流会) ②・7月11日(金)(一)溶接学会東北支部第37回溶接・接合研究会(八戸市) 3. 人材育成 ・企業見学会:日程の都合がつけられず見送り 4. 表彰関係 ①推薦者なし ②推薦見送り(推薦条件に適う候補者なし) ③推薦者なし ④推薦者なし 5. 入会実績1件 |

(3)関東支部

| 計 画 | 実施状況 |
|---|---|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部運営委員会(4回) 2.講演会等 ①第149回秋期大会(横浜国立大)の実行援助 ②工場見学会 3.人材育成 若手研究者講演発表会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動 セミナーや訪問活動を継続 | 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ・第1回運営委員会、5月29日、ハイブリッド形式 ・第2回運営委員会、8月1日、ハイブリッド形式 ・第3回運営委員会、12月16日、ハイブリッド形式 ・第4回運営委員会、4月17日、ハイブリッド形式 2.講演会等 ①第149回秋期大会(横浜国立大)実行委員としての援助 ②工場見学会(株神戸製鋼所・真岡製造所)、3月6日、参加者20名(学生16名、教員4名) 3.人材育成 第11回若手研究者ポスター発表会、9月22日、対面、発表36件、参加者約60名(水戸市民会館) 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:1件 ②軽金属功労賞:推薦無し ③軽金属希望の星賞一次選考・推薦:枠内10名、枠外6名 ④その他:第11回若手ポスター発表会において支部賞を授与(優秀ポスター賞など6件) 5.維持会員加入勧誘活動 適宜実施 |
| 特記事項) | |
| ・第4回運営委員会は、2026年度第1回運営委員会と同時開催 | |

(4)北陸支部

| 計 画 | 実施状況 |
|--|---|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会(2回) ②大会実行委員会(2回) 2.講演会等 ①春期講演会 ②秋期講演会 3.人材育成 ①幹事研修会 ②若手育成支援事業 4.表彰関係 | 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 ① 4月9日(火)於 富山大学 10月1日(火)於 富山大学 2. 講演会等 ①6月20日(木) 富山大学 56名参加 ②12月8日(月) 高岡市ウイング・ウイング 3.人材育成 ①幹事研修会:10月18,19日 富山県立大 射水キャンパス、富山大学 高岡キャンパス視察 ②若手人材育成事業:7月10日(水) 三協立山(株) アイシン軽金属(株)見学 4.表彰関係 |

| | |
|--|--|
| ①高橋記念賞推薦 ②軽金属学会功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動 | ①高橋記念賞推薦:なし ②軽金属学会功労賞:なし ③軽金属希望の星賞一次選考 4名推薦(枠内 2、枠外 2)、4名受賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①中堅企業支援セミナー12月 8日(月) 高岡市ウイング・ウイング |
| 【特記事項】 ・中堅企業支援セミナー (株)ブリジストン 吉田真樹氏 「空気を不要にするブリジストンの次世代タイヤ「AirFree®」 独立行政法人鉄道建設 永利将太郎氏 「北陸新幹線敦賀開業について」 (株)TAN-EI-SYA 栗原一聡氏 「鍛造技術活用による多様化する製品需要」 | |

(5)東海支部

| 計 画 | 実施状況 |
|---|---|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会 ②理事会(3回、但し第1回は運営委員会と兼務) 2.講演会・研究部会等 ①講演会(1回) ②研究部会(航空機材料部会) ③支部セミナー 3.人材育成 ①若手ポスター発表会 ②女性会員の会 ③中・高生向け工場見学会 ④ダイバーシティ推進委員会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①Tech Biz 2025 :支部活動展示、講演会 | (上期実績) 1.総会・講演会:6月9日、名工大で開催 理事会:第一回=6月25日 第二回=9月30日…Web 運営委員会:6月25日…(Web) 2.研究部会 航空機材料部会:7075合金材の品質問題協議 →2回の会合実施 3.人材育成 女性会員の会:8月26日…学生と社会人の思考を共有 4.維持会員勧誘活動 Tech Biz 2025:5月28-29日…講演会企画、近藤工作 所(企業奨励賞受賞)展示 (下期実績) 1.研究部会:①支部セミナー:テルミックでDX事例視察(12/4) ②航空機材料部会(1/19) 2.人材育成:①若手ポスター発表会:11月21日名古屋大で開催 ②女性 性の会工場見学会(12/4) 3.企業奨励賞:東金属産業(株)受賞 1.理事会:3/18 2.人材育成:中・高生向け工場見学会(3/27) |
| 特記事項 他学会との共催推進 金属学会・鉄鋼協会東海支部:若手ポスター発表会、中・高生向け工場見学会 鑄造工学会東海支部 鑄造プロセス研究部会女性の会:8/26開催の女性の会 | |

(6)関西支部

| 計 画 | 実施状況 |
|--|--|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会・支部幹事会(2回) 2.講演会等 ②支部シンポジウム 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール ②大学院生フィールドワーク助成プログラム ③若手研究者・院生による研究発表会 | 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会・支部幹事会(2回) 第1回2025年4月16日、第2回2025年12月15日 2.講演会等 ①支部シンポジウム 日時:2025年9月8日13:30~16:45、場所:関西大学梅田キャンパス 備考:講演3件、参加者35名 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール 日時:2025年9月8日10:30~12:10、場所:関西大学梅田キャンパス 備考:講義2件、参加者33名 ②大学院生フィールドワーク助成プログラム 受入企業:(株)神戸製鋼所,堺アルミ(株),東洋アルミニウム(株),アルミテラ(株) 参加学生:兵庫県立大(3名),大阪工大(6名),大阪大(4名),関西大(4名) ③若手研究者・院生による研究発表会 日時:2026年1月15日10:00~19:00 場所:大阪公立大学 I-site なんば 備考:参加者79名、 口頭発表(6件),ポスター発表(22件), |

| | |
|---|--|
| <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦、②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④企業奨励賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動継続 ②出前講座</p> | <p>大学院生フィールドワーク発表(4件)、特別講演(1件)、 研究発表最優秀賞(2名)、ベストポスター賞(6名)、 最優秀フィールドワーク賞(1件)</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:推薦なし、②軽金属功労賞推薦:推薦なし ③軽金属希望の星賞:4名(枠内3名、枠外1名)受賞 ④企業奨励賞:推薦なし 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動:継続中 ②出前講座【関西軽金属セミナー】 日時:2026年3月4日 13:20~16:45 場所:(地独)大阪産業技術研究所 和泉センター 備考:(地独)大阪産業技術研究所との共催、講演7件、見学会</p> |
| <p>特記事項) 第24回軽金属躍進賞:趙 研 大阪大学大学院工学研究科 准教授 第43回軽金属奨励賞:奥川将行 大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻 助教 第17回軽金属女性未来賞:田中芹奈 兵庫県立大学工学研究科機械工学専攻 助教 2025年維持会員入会:ダイハツ工業株式会社(関西1口)</p> | |

(7) 中国四国支部

| 計 画 | 実施状況 |
|--|---|
| <p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会(2回)</p> <p>2.講演会等 ①第17回支部講演大会(香川大学) ②研究会(3回)</p> <p>3.人材育成 ①若手フォーラム ②高校生のポスター発表(岡山、徳島)</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属功績賞推薦 ④軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ⑤支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)選考・授与</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①中小企業支援事業、講演会を開催 ②訪問活動継続</p> | <p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合(2回) 第1回役員会(6月16日 WEB開催) 第2回役員会(10月4日開催、香川大学ハイブリッド開催)</p> <p>2.講演会等 ①第17回支部講演大会(香川大学)(10月4日開催)発表件数:20件(内基調講演1件)、参加者:40名 ②研究会(2回) ・支部研究会(日本金属学会・日本鉄鋼協会共催)「金属材料の三次元積層造形技術の最前線」開催日:2025年11月12日、会場:鳥取大学広報センター、参加者:35名、世話係:鳥取大学 ・支部研究会(日本金属学会・日本鉄鋼協会共催)「チタン・チタン合金研究最前線(8)」開催日:2025年12月19日、会場:岡山大学工学部、参加者:15名、世話係:岡山大学、愛媛大学</p> <p>3.人材育成 ①若手フォーラム(日本金属学会・日本鉄鋼協会共催) 第59回:2025年12月5日開催(岡山国際交流センターレセプションホール(岡山市)、参加者:19名 第60回:2025年12月20日開催(於 徳島大学)、参加者:28名 第61回:2026年2月21日開催(於 ビュアリティまきび(岡山市))、参加者:28名 ②高校生のポスター発表 第60回若手フォーラム 高校生16名参加 第61回若手フォーラム 高校生22名、高専生1名参加</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦:なし ②軽金属功労賞推薦:なし ③軽金属功績賞推薦:なし ④軽金属希望の星賞:1名推薦→1名受賞 ⑤支部賞 ・支部優秀講演賞:4件授与、・支部研究・開発奨励賞:1件、1組に授与 ・支部特別功労賞:1名に授与、・支部奨励賞:10名に授与</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 ①「中堅企業支援セミナー」 開催日:2025年12月17日開催、会場:広島市工業技術センター(広島市)参加人数:35名、世話係:広島市工業技術センター、広島工業大学 ②訪問活動 継続実施</p> |
| <p>特記事項) 2025年度中堅企業支援セミナー 「アルミニウムのアノード酸化プロセスにおける技術動向」奥野製薬工業(株) 原 健二 氏 「蒸気コーティングを利用したマグネシウム合金の表面処理」芝浦工業大学 工学部 石崎 貴裕 教授</p> | |

(8)九州支部

| 計 画 | 実施状況 |
|---|--|
| 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2回) ②例会(2回) ③第148回春期大会実行委員会(1回) ④第148回春期大会 ⑤材料系学協会九州支部支部長会議 2.講演会等 ①合同学術講演会共催 5月 北九州国際 会議場 3.人材育成 ①若手研究者支援セミナー ②中堅企業支援支部セミナー 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④合同学術講演会表彰学生による招待講演 5.維持会員加入勧誘活動 ①訪問活動継続 | 1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①②第113回役員会・例会(7/30・産業総合研究所 九州センター) ①②第114回役員会・例会(3/23・KM アルミニウム) ③10/3・KTP 博多駅筑紫口 ④5/18・北九州国際会議場 ⑤7/3・熊本県民交流館パレア, 3/18・ 2.講演会等 ①7/30・産業総合研究所 九州センター 基調講演2件, 口頭47件, ポスター55件 3.人材育成 ①7/30 28名参加, うち若手10名 ②3/23・KM アルミニウム(福岡県大牟田市) 4.表彰関係 ①1名推薦 ②該当無し ③3名推薦 ④合同学術講演会で口頭およびポスター発表優秀賞を授与された学生 5 名による招待講演 5.維持会員加入勧誘活動 ①検討中 |

II. 処務の概況

[1] 役員等に関する事項

1. 役員

| 職名 | 氏名 | 常勤・非常勤 | 就任年月日 (最初の就任の時) | 重任年月日 (現在の任期の開始時) | 報酬 | 担当 *:委員長 | 前回総会時役職 |
|--------------|-------|--------|--------------------|----------------------|----|-------------|--|
| 代表理事 ・会長 | 戸田 裕之 | 非常勤 | 2025年5月16日 | | なし | 組織* | 九州大学 主幹教授 |
| 代表理事 ・副会長 | 徳田 健二 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 総合計画 | ㈱神戸製鋼所鉄鋼アルミ事業部門 技術企画部 担当部長 |
| 同上 | 廣澤 渉一 | 同上 | 2023年5月12日 | 2025年5月16日 | 同上 | 総合計画* | 横浜国立大学 教授 |
| 理事 | 阿部 英司 | 同上 | 2025年5月14日 | | 同上 | 研究 | 東京大学 教授 |
| 同上 | 荒木 秀樹 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 編集* | 大阪大学 教授 |
| 同上 | 安藤 新二 | 同上 | 2023年5月12日 | 2025年5月16日 | 同上 | 編集 | 熊本大学 教授 |
| 同上 | 市野 良一 | 同上 | 2022年5月27日 | 2025年5月16日 | 同上 | 国際交流 | 名古屋大学 教授 |
| 同上 | 北菌 幸一 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 大会運営* | 東京都立大学 教授 |
| 同上 | 小林 正和 | 同上 | 2023年5月12日 | 2025年5月16日 | 同上 | 総務 | 豊橋技術科学大学 教授 |
| 同上 | 坂入 正敏 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 企画* | 北海道大学 教授 |
| 同上 | 佐藤 英一 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 編集 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 専任教授 |
| 同上 | 田中 康弘 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 大会運営 | 香川大学 教授 |
| 同上 | 中山 栄浩 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 企画 | 山梨大学 教授 |
| 同上 | 春名 匠 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 国際交流 | 関西大学 教授 |
| 同上 | 福本 信次 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 男女共同 | 大阪大学 教授 |
| 同上 | 松田 健二 | 同上 | 2025年5月14日 | | 同上 | 国際交流* | 富山大学 教授 |
| 同上 | 水本 将之 | 同上 | 2023年5月12日 | 2025年5月16日 | 同上 | 大会運営 | 岩手大学 教授 |
| 同上 | 御手洗容子 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 男女共同* | 東京大学 教授 |
| 同上 | 穴見 敏也 | 同上 | 2017年5月20日 | 2025年5月16日 | 同上 | 総務* | 日本軽金属㈱ 技術・開発グループ 管理部長 |
| 同上 | 小原 美良 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 総務 | JFE テクノリサーチ㈱ マテリアル評価・解析 Division 腐食評価・解析センター 腐食解析グループ 主査 |
| 同上 | 栗田 洋敬 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 参与会* | ヤマハ発動機株式会社 生産技術本部 材料技術部 シニアストラテジーリード |
| 同上 | 黒木 康徳 | 同上 | 2021年5月14日 | 2025年5月16日 | 同上 | 研究* | ㈱IHI 戦略技術統括本部 技監 |
| 同上 | 鈴木 智博 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 企画 | 株式会社豊田自動織機 技術統括センター 材料技術部 材料技術第二室室長 |
| 同上 | 箕田 正 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 研究 | 株式会社UACJ マーケティング・技術本部 R&D センター 基盤研究部長 |
| 同上 | 森 努 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 男女共同 | YKK AP 株式会社 生産本部 素材技術部 アルミ材料技術室 室長 |
| 監事 | 宇野 清文 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 監事 | 三協立山株式会社 技術総括室長 付 兼務 サステナビリティ推進部長 |
| 同上 | 向井 敏司 | 同上 | 2025年5月16日 | | 同上 | 同上 | 神戸大学 教授 |

[2] 職員に関する事項

| 職名 | 氏名 | 常勤・非常勤 | 採用年月日 | 担当事務 | 備考 |
|------|-------|--------|-----------|-------|---------------|
| 事務局長 | 櫻井健夫 | 常勤 | 2023年1月1日 | 全般 | 2023年6月1日着任 |
| 職員 | 前田その美 | 非常勤 | 1996年4月1日 | 庶務 | 2021年10月1日再雇用 |
| 職員 | 木村明子 | 常勤 | 1996年4月1日 | 庶務・編集 | |
| 職員 | 八反田 稔 | 非常勤 | 2024年7月1日 | 経理 | |
| 職員 | 徳間由希 | 非常勤 | 2025年2月1日 | 編集 | |

[3]許可、認可、承認、証明に関する事項

| 年月日 | 議事事項 | 履行状況 |
|-----|------|------|
| なし | | |

[4]契約に関する事項

| 年月日 | 契約内容 | 契約先・委託者 |
|-----|------|---------|
| なし | | |

[5]寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[6]主務官庁からの連絡および報告事項

| 年月日 | 議事事項 | 履行状況 |
|-----|------|------|
| なし | | |

[7]その他重要事項 特になし

[8]会員動向

| | 名誉会員 | 永年会員 | 個人会員 | | | 合計 |
|-----------|------|------|-------|------|-------|-------|
| | | | 正会員 | 学生会員 | 合計 | |
| 2026年4月1日 | 45 | 84 | 1,337 | 322 | 1,659 | 1,788 |
| 2025年4月1日 | 46 | 87 | 1,352 | 293 | 1,645 | 1,778 |
| 差引増減 | △1 | △3 | △15 | 29 | 14 | 10 |

正会員の内訳

| | 大学・高専等 | 公的研究機関 | 企業等 | その他 | 合計 |
|-----------|--------|--------|-----|-----|-------|
| 2026年4月1日 | 419 | 92 | 779 | 47 | 1,337 |
| 2025年4月1日 | 419 | 96 | 793 | 44 | 1,352 |
| 差引増減 | - | △4 | △14 | 3 | △15 |

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

| | 特別維持会員 | 維持会員 | 口数 | | | | | | | | 年間購読 | |
|-----------|--------|------|----|---|---|---|---|---|----|-----|------|----|
| | | | 10 | 8 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | 合計 |
| 2026年4月1日 | 3 | 125 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 13 | 106 | 165 | 34 |
| 2025年4月1日 | 3 | 128 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 16 | 106 | 171 | 35 |
| 差引増減 | - | -3 | - | - | - | - | - | - | -3 | - | -6 | -1 |

[9]事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。